

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「更級日記」 門出」 問題①

東路の道の果てよりも、なほ奥つ方に^①生ひ出で^アたる人、いかばかりかはあやしかり^イけむを、いかに^②思ひ始め^ウけること^エにか、世の中に物語と^③いふものの^④あ^ンなるを、いかで^⑤見ばやと^⑥思ひつつ、つれづれなる昼間、宵居などに、姉、継母などやうの人々の、その物語、かの物語、光源氏の^⑦あるやうなど、ところどころ^⑧語るを^⑨聞くに、いとどゆかしさ^⑩まされど、わが^⑪思ふままに、そらにいかでか^⑫おぼえ^⑬語ら^カむ。いみじく心もとなきままに、等身に薬師仏を^⑭造りて、手洗ひなど^⑮して、人まにみそかに^⑯入りつつ、「京にとく^⑰上げ^⑱たまひて、物語の多く^⑲さぶらふ^キなる、^⑳あるかぎり^㉑見せ^㉒給へ」と、身を^㉓捨て^㉔て額を^㉕つき、^㉖祈り^㉗申すほどに、十三に^㉘なる年、^㉙上ら^クむとて、九月三日門出^㉚して、いまたちと^㉛いふ所に^㉜移る。

年ごろ^㉝遊び慣れ^ケつる所を、あらはに^㉞こぼち散らして、^㉟立ち騒ぎて、日の入りぎはの、いとすごく^㊱霧り渡り^コたるに、車に^㊲乗るとて、^㊳うち見やり^サたれば、人まには^㊴まゐりつつ、額を^㊵つき^シし薬師仏の^㊶立ち^㊷たまへ^スるを、^㊸見捨て^㊹奉る悲しくて、人^㊺知れ^セず^㊻うち泣か^ソれ^タぬ。

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「更級日記」 門出」 解答①

ダ下二用 完了

過去推量

東路の道の果てよりも、なほ奥つ方に^①生ひ出で^アたる人、いかばかりかはあやしかり^イけむ

マ下二用

過去

断定

ハ四体

ラ変体 伝聞

を、いかに^②思ひ始め^ウけること^エにか、世の中に物語と^③いふものの^④あん^オなるを、いかで

マ上一未

ハ四用

^⑤見ばやと^⑥思ひつつ、つれづれなる昼間、宵居などに、姉、継母などやうの人々の、その物語、

ラ変体

ラ四体

カ四体

ラ四已

かの物語、光源氏の^⑦あるやうなど、ところどころ^⑧語るを^⑨聞くに、いとどゆかしさ^⑩まされ

ハ四体

ヤ下二用

ラ四未

推量

ど、わが^⑪思ふままに、そらにいかでか^⑫おぼえ^⑬語ら^カむ。いみじく心もとなきままに、

ラ四用

サ変用

ラ四用

ガ下二用

等身に薬師仏を^⑭造りて、手洗ひなど^⑮して、人まにみそかに^⑯入りつつ、「京にとく^⑰上げ

ハ四用

ハ四終

伝聞

ラ変体

サ下二用 ハ四命

タ下二用

たまひて、物語の多く^⑰さぶらふ^キなる、^⑲あるかぎり^⑳見せ^㉑給へ^㉒と、身を^㉓捨てて額を

カ四用

ラ四用

サ四体

ラ四体

ラ四未

意志

サ変用

^㉔つき、^㉕祈り^㉖申すほどに、十三に^㉗なる年、^㉘上ら^クむとて、九月三日門出^㉙して、いまたち

ハ四体

ラ四終

と^㉚いふ所に^㉛移る。

ラ下二用

完了

サ四用

ガ四用

年ごろ^㉜遊び慣れ^ケつる所を、あらはに^㉝こぼち散らして、^㉞立ち騒ぎて、日の入りぎはの、

ラ四用

存続

ラ四終

ラ四用

完了

ラ四用

いとすごく^㉟霧り渡り^コたるに、車に^㊱乗るとて、^㊲うち見やり^サたれば、人まには^㊳まゐりつつ、

カ四用

過去

タ四用

ハ四已

存続

タ下二用

ラ四体

ラ下二未

打消

カ四未

額を^㊴つき^シし薬師仏の^㊵立ち^㊶たまへ^スるを、^㊷見捨て^㊸奉る悲しくて、人^㊹知れ^セず^㊺うち泣か

自発 完了

ソれ^タぬ。